

# 専門研修プログラム



## contents

Q1. 新専門医制度って？	60
Q2. 専門医って、どうすればなれるのですか？	61
Q3. 学位は必要ですか？	61
Q4. 学位を目指すすと専門医の取得が遅れるのでは？ 大学院についても教えてください。	62
Q5. 大学外の病院で引き続き専門研修を受ける場合と どこが違うのですか？	63
Q6. 大学に所属すると自分の希望しない病院に派遣されるのでは？	63
Q7. 初期研修を弘前大学で受けませんでした。 それでも、専門研修は大学で受けられますか？	64
Q8. 女性でも安心して研修できますか？	64
Q9. 弘前大学の特徴は？	64
Q10. 大学は給与が低いと聞きました。 弘前大学医学部附属病院における待遇は？	65
Q11. 迷っているあなたへ	65

## Q1 新専門医制度って？

A

**19の全基本領域について、中立的な第三者機関である日本専門医機構が中心となり、各学会と連携しながら運用する新しい専門医養成システムが新専門医制度です。**

2017年度までの専門医制度では学会が運営主体でしたが、2018年度から始まった新制度では日本専門医機構が中心となり、各学会と連携しながら運営を行っています。

2年間の初期臨床研修を修了した医師は、卒後3年次以降さらに特定の分野について、高度で専門的な知識と技術を身につけるために、まず内科、小児科、皮膚科、精神科、外科、整形外科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、脳神経外科、放射線科、麻酔科、病理、臨床検査、救急科、形成外科、リハビリテーション科、総合診療の19の基本領域と呼ばれる専門分野の中から一つを選び、概ね3～5年間程度の研修を受け、専門医試験を経て「〇〇専門医」の資格を得ることになります。その上で、さらに「循環器専門医」、「消化器外科専門医」などサブスペシャリティ領域専門医と呼ばれる上級の資格を目指して研鑽を積むことになります。このような制度運営の中心となるのが第三者機関である日本専門医機構であり、専門医の認定や更新、あるいは専門医養成のためのプログラムの最終的な認定などを行っています。

## Q2

# 専門医って、どうすればなれるのですか？

A

## まずは基本領域の専門医を目指し専門研修を受けて下さい。

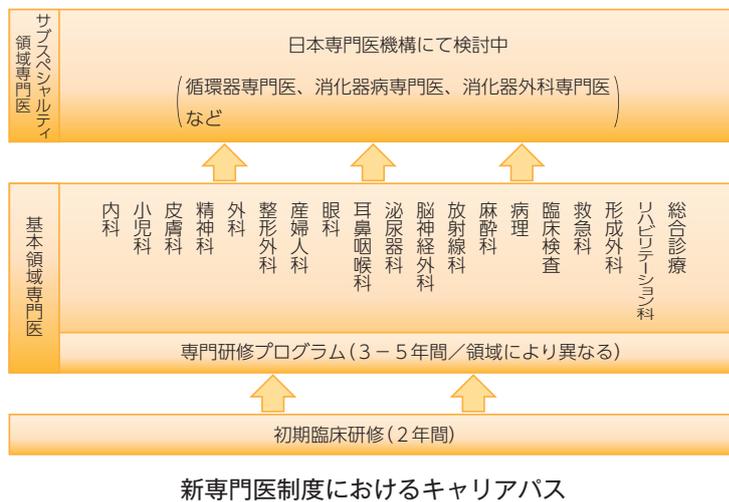
2018年4月から開始されている新専門医制度の仕組みの概要は以下のとおりです。

各科ごとに定められた期間、定められた内容の研修を受け、修了の基準を満たしていれば基本領域の研修が修了となります。その上で専門医試験を受験し、合格すれば「〇〇専門医」の資格が得られます。専門医資格を目指して研修中の医師を専攻医と呼びますが、専攻医になるためには、全国に数千設置されている専門研修プログラムのどれかに採用される必要があります。専門研修を開始するための専攻医募集は、例年11月頃に開始しています（詳細は日本専門医機構ホームページをご確認ください）。希望者は、いずれかのプログラムに応募し、選考過程を経て採用となります。

A

## 専門医制度は二階建て

2018年4月から開始されている新専門医制度は、原則いわゆる“二階建て制度”になっており、Q1の内科、外科、産婦人科、小児科など基本領域と呼ばれる分野の専門医が一階に相当し、循環器内科、消化器外科などサブスペシャリティ領域の専門医が二階に相当します。このうち现阶段で新専門医制度で整備されているのは一階部分の基本領域専門医についてであり、その他のサブスペシャリティ領域の専門医制度についても現在整備されつつあります。いずれにせよ将来の我が国の医療を担っていく若い皆さんは、基本領域専門医資格に留まらず、是非より高度な知識や技術を身につけたサブスペシャリティ領域専門医までの資格も取得して、大いに活躍して頂きたいと思います。弘前大学は今までの学会専門医制度でも新専門医制度でも、基本19領域の専門研修プログラムを全て備えることはもちろん、その先のサブスペシャリティ領域専門医取得のための研修も用意して、皆さんをお待ちしています。



## Q3

# 学位は必要ですか？

A

## 医療現場に必要なのは科学的思考法

専門医の資格と同様に重要な資格が学位（医学博士）です。専門医の資格がより高度で専門性の高い医療を行う上での認定証であるのに対し、学位は科学としての医学を修めたことの証明書ということができます。将来は臨床の現場に進むのだから、学位は不必要であると思いがちですが、とんでもない誤解です。科学としての医学を修めることは最善の医療を実践する上で必要不可欠の要件になります。なぜかと言えば、学位を取得するためには事実を把握した上で物事の論理性を学び、その論理の妥当性を検証する作業を行わなければならない、知らないうちに臨床医として必要な科学的思考法が鍛えられているからです。そのような思考法は臨床経験から学べると思われるかもしれませんが、果たして、それはどうでしょうか？経験を独り善がりのものとしなないためには科学による裏付けが必要であり、学位を有するという事は科学によって裏付けされた医療を行っている一つの証です。その意味からも、連携施設（いわゆる関連病院）の医長クラスの先生方は異口同音に、「学位は大切だ」とおっしゃっています。換言するなら、経験が重宝される時代から論理性が求められる時代へと臨床の現場も変貌していることであり、この傾向は今後益々加速するでしょう。

**A**

## 就職や昇進の条件・指導医取得の要件となることもある学位の有無

学位の有無を採用や昇給、昇進の評価要件としている施設は少なくありません。本学でも助教の採用にあたっては、学位の取得が必要とされています。また、一部の学会では、学位が指導医資格の取得要件となっている場合もあります。学位取得は、より高度な学問を修めた証であり、社会はそのような人材を求めています。中核病院で指導的立場にある医師の多くは、専門医資格と学位の両方を取得しています。さらに重要なのは、学位取得の過程で一つの未解決の課題に真摯に取り組むことにより得られる経験が、将来的に必ず役立つという点です。

**Q4**

## 学位を目指すと専門医の取得が遅れるのでは？ 大学院についても教えてください。

**A**

### 学位取得には一定の研究期間が求められますが、 学位取得と専門医取得は両立も可能です

学位を取得するには、大学院博士課程を修了する（いわゆる課程博士）か、研究生として一定期間大学に所属し、外国語試験に合格した上で論文を提出する（いわゆる論文博士）必要があります。いずれの場合も、原著論文を提出し、それが学位として認定されなければなりません。

大学院博士課程は通常、修了までに4年を要しますが、一定の条件を満たすことで修業年限を短縮し、3年または3年半で修了することも可能です（いわゆる「飛び級」）。また、社会人入学制度を利用すれば、卒後臨床研修や専門研修を受けながら研究を並行して行うこともできます。近年ではこの制度を積極的に活用する大学院生が増えており、社会人大学院生に配慮して、大学院講義は夕方5時以降に行われています。

**A**

### 専門研修専攻分野の先進的な研究課題に取り組むことでより充実した専攻研修へ

専門研修プログラムに在籍し、いずれかの病院に勤務しながら、社会人大学院生として大学院に進学することも可能です。大学院での研究課題に、自身が将来専攻する予定のサブスペシャリティ領域に関連する分野を選択すれば、研究と専門医研修の両面でより充実した学びが得られます。

なお、本院では「未来がん医療プロフェッショナル養成コース」を開設しており、特に将来、腫瘍系の専門医を目指す方には強くお勧めいたします。

**A**

### 卒後臨床研修1年目からの大学院入学が可能です

弘前大学大学院医学研究科では、原則、2年の臨床研修修了後に大学院入学を認めています。指導教授の了解を得ることにより、卒後臨床研修1年目から入学が可能です。一方、論文博士を目指す場合、臨床系では6年、基礎系では5年の研究歴が必要です。ただし、卒後臨床研修の2年間は研究歴には含まれないため、論文博士として学位を取得する場合、早くても医学部卒業後7年目（臨床系では8年目）以降となります。これらの大学院課程や入学方法の詳細については、本学大学院のホームページをご覧ください（<https://www.med.hirosaki-u.ac.jp/web/index.html>）。

**A**

## 研究医育成事業により学位取得を支援します

弘前大学大学院医学研究科・附属病院では、弘前大学医学部附属病院で卒後臨床研修を行う研修医の増加を図ると共に、大学院医学研究科へ入学する優秀な人材を確保し、研究医として育成することを目的とした研究医育成事業があります。大学院の入学料や授業料の一部を助成する制度です。この制度の申請資格者は、本学附属病院の卒後臨床研修プログラムで臨床研修（初期研修）を受けながら本学大学院医学研究科へ入学する者、または同プログラムによる臨床研修を修了した方のうち3年以内の方で、助成内容は、入学料（282,000円）、1年次授業料（535,800円）と2年次授業料半期分（267,900円）の支援です。なお、採用人数は原則10名以内／年度です。内容に関する問い合わせは、弘前大学医学研究科総務課学務グループ（連絡先：電話0172-39-5204、メールjm5204@hirosaki-u.ac.jp）までお願いします。

**Q5**

## 大学外の病院で引き続き専門研修を受ける場合とどこが違うのですか？

**A**

### 大学では専門研修に特化した教育を行っています

大学での専門研修には二つの目的があります。一つは19の基本領域の専門医（一階部分の専門医）の資格を確実に取得すること。そして、もう一つは専門医の中の専門医（二階部分の専門医たるサブスペシャリティ領域の専門医）の資格を取得することです。また、基本領域の研修期間とサブスペシャリティ領域の研修期間の一部をできるだけオーバーラップさせ、最短期間でサブスペシャリティ領域専門医資格が取得できるよう工夫しています。サブスペシャリティ領域専門医資格の取得は残念ながら市中病院では一部施設を除いてはきわめて困難です。

**A**

### 大学では豊富な症例、重要な症例が確実に経験できます

大学のプログラムでは本学附属病院を初め、多くの連携施設（いわゆる関連病院）があり、これらの施設をローテーションすることにより専門医資格を取得するために必要な豊富な症例、重要な症例を確実に経験することができます。

**A**

### 大学ではいっそう見識が高まります

大学のプログラムでは、本学附属病院及び連携施設（いわゆる関連病院）に多くの指導医たちが在籍しています。豊富な症例経験とともに、これら多くの指導医たちの指導を受けることにより、いっそう見識が高まり豊富な知識と確実な技術を効率よく身につけることができます。

**Q6**

## 大学に所属すると自分の希望しない病院に派遣されるのでは？

**A**

### 封建的な大学像はもはや過去の話！

専攻する領域によって、専門研修中に勤務する大学病院以外の施設には当然各々特色と言うべきばらつきがあります。大学の各講座は専門医養成の観点から、また地域医療の観点からそれぞれの地域に連携施設（いわゆる関連病院）を有しており、専門研修中の一定期間、連携施設で研修を行います。しかし、その派遣先を選ぶにあたっては、専攻医の実力や派遣先の病院の指導体制などを総合的に勘案して決めています。

**A**

## 複数の病院勤務はむしろ歓迎すべき！

連携施設にも分野ごとに特徴があります。大学では専攻医の連携施設への派遣にあたっては専攻医の教育上有用な連携施設への派遣を第一に考えています。従いまして連携施設への派遣は専攻医にとって不利に働くどころか、多くの指導者に巡り会い、その知識と技術の教えを受けることによって多様な経験を積むことができるので、かえってプラスに働くでしょう。若いうちには同じ施設に留まるよりもむしろ複数の施設での経験を積むことも必要です。そうすることで人脈の形成もできるのです。

**Q7**

## 初期研修を弘前大学で受けませんでした。それでも、専門研修は大学で受けられますか？

**A**

勿論です。各専門研修プログラム紹介ページに掲載している問い合わせ先をご参照のうえ、積極的に応募して頂くよう期待しています。

**Q8**

## 女性でも安心して研修できますか？

**A**

勿論です。現在でもたくさんの女性医師が研修医、専攻医あるいはスタッフとして活躍しています。女性専用の当直室も完備してありますので、快適に過ごせるはず。女性医師にとって専門研修期間中の結婚や出産等は大変気になるところですが、どの科でも誰に気兼ねすることなく新婚旅行休暇や育児休暇がとれるよう対応しています<sup>(注)</sup>。夏季休暇や年末・年始休暇については言うに及びません。また、平成20年には保育所「ひろだい保育園」が開設され24時間保育が可能となりました。

さらに、平成27年には、出産後の職場復帰した女性医師への育児相談や情報交換等を行うためのコミュニケーションルームや休憩室などを備えた女性医師支援施設が設置され、女性医師の働きやすい職場環境が整備されました。

(注) 育児休暇などの期間に関しては研修先により異なります。

**Q9**

## 弘前大学の特徴は？

**A**

- (1) 新専門医制度に定める19の全基本領域の専門研修プログラムを用意しています。
- (2) 「専門医の中の専門医」たるサブスペシャリティ領域の専門医のスムーズな取得につながる教育を行っており、またそのための指導医が豊富です。
- (3) 各学会の理事や評議員が大勢在職しているので学会への入会が容易で、かつ学会の動向にリアルタイムに触れられます。
- (4) 基礎医学講座があるので臨床と研究が直結し、臨床から得られた疑問を解決する喜びを味わえます。
- (5) 頻繁に研修会や研究会が開かれ勉強の機会に恵まれています。

**A**

- (6) 多方面の専門家が在職しているため自分の専門外の最新情報や技術が、居ながらにして身につけられます。
- (7) 学会発表や論文作成等の指導を受けることを通して真のリサーチマインドを有する専門医となることができます。学会や論文で医学上の新しい知見を発表することは医師としての喜びでもあり、実績となり自信に繋がります。
- (8) 国内留学や国外留学の機会が得られ、国内外に友人ができ、一生の財産となる貴重な人脈ができます。
- (9) 多くの連携施設（いわゆる関連病院）での診療を経験する機会が得られ、貴重な症例の勉強に事欠きません。
- (10) 基本領域専門医、サブスペシャリティ領域専門医を取得したあかつきには大学で指導医として残る道や連携施設（いわゆる関連病院）への就職等幅広い進路の選択が可能です。どの病院もこのような真の実力ある専門医を必要としています。
- (11) 大学院へ進学しながらの研修も可能です。専門医の資格と同時に学位（医学博士）の取得も可能です。
- (12) 附属病院のある本町キャンパス敷地内に開設された「ひろだい保育園」（24時間保育）を利用できます。
- (13) 我が国初の被ばく医療施設の機能を兼ね備えた「高度救命救急センター」を有しています。「高度」がつくのは大学病院だけです。屋上ヘリポートも完備し、広域をカバーする活発な救急医療が行われています。

**Q10**

## 大学は給与が低いと聞きました。 弘前大学医学部附属病院における待遇は？

**A**

### 大学での専門研修は将来に向けての重要な投資です

弘前大学医学部附属病院で勤務する専攻医の処遇は、原則として病院助手（非常勤医師）での雇用となり、給与は年額約300万円です。社会保険、労働保険等は常勤職員と同じく適用されます。他病院と比較すると給与水準が確かに低めかもしれませんが、それを補うために各領域のプログラムでは、週1~2回の市中病院等への兼業（アルバイト）が認められており、月8~16万円程度の報酬を得られるように配慮していますので、たとえ家庭を持っている人でも生活に困ることはありません。また、この兼業は、common diseaseの経験や人脈の形成に役立っている効果も持っています。さらに内科などでは、兼業先の外来症例が専門医取得に役立つ場合もあります。大学での研修を将来への投資と考えれば決して低いとは言えないでしょう。

その他、専門研修において、本院では経験しがたい症例等を経験することを目的として連携施設へ数ヶ月~1年間程度派遣される場合があります。派遣中はその病院の職員として勤務し、その病院の常勤医師と同等の給与が支給されます。

卒業後の数年間は修業時代です。きちんとした研修を受けていさえすれば、将来において間違いなくそれに見合った報酬を得ることが可能なはずで

**Q11**

## 迷っているあなたへ

**A**

### 迷うあなたに多くの夢を提供し、実現してくれるのが大学です

「初期研修期間中にいくつかの診療科を回ったけれど、自分にあった診療科が見つからない」、「やりたい診療科があるのだけれどどこで研修を受けるべきか決心がつかない」、「医師としてのキャリアをどのように積んでいったらよいかかわからない」「自分が将来専攻するサブスペシャリティ領域が決まらない」など迷う要因は様々です。このような迷いを持つ者にとってこそ、大学は最も適した研修先と言えると思います。大学のプログラムでは確実に基本領域の専門医資格を取得することができ、大学院での研究も可能で、あなたの可能性を最大限に開花させてくれるでしょう。また、大学には多くの医師が仲間として在職しています。困った時に一緒に話を聞いてくれる同世代の専攻医、なんでも相談できる上級医、自分の理想となるような先輩医師など、大学では本当に素晴らしい仲間や先輩に囲まれて、自分を磨いていくことができることを私たちは約束します。